

会報

第13号

2007年12月1日発行

発行：群馬県地域密着型サービス連絡協議会

事務局：〒370-2102

多野郡吉井町小暮 568-1 かがやき入野ホーム内

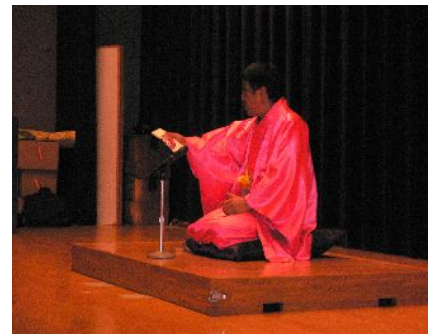
TEL 027-320-4176 FAX 027-320-4120

協議会ホームページ <http://www.gunmaken-chiiki.net>

第五回 群馬県小規模多機能・ グループホーム大会 平成19年10月31日 前橋市総合福祉会館

平成19年10月31日、「第5回群馬県小規模多機能・グループホーム大会」が前橋市の総合福祉会館で開催されました。今年度より、小規模多機能型居宅介護事業所も連絡協議会の会員となつて、始めての大会となりました。事業所関係者、約250名余り、市町村職員や未加入事業所等、約30名余りの参加となりました。

第5回を迎える大会では、色々と思いをこらし、午前の部では、群馬県認知症一座による寸劇「認知症の人を理解する」や、立川談之助氏をお招きして特別講演として「笑いと高齢化社会」をテーマに落語を披露していただき、午後の部では、各グループホームによる「事例発表」を多目的ホールと社会適応訓練室・第一、二会議室の3会場にてそれぞれ、8事例ずつ行い、その後、全体事例シンポジウムを設け、2事例をより深くディスカッションしました。



群馬県地域密着型サービス 連絡協議会 会長 井上謙一

あいさつ



グループホームは介護保険制度発足と同時に認知症介護の切り札として少人数の共同生活の場となり、そこで馴染みの介護者が個別に関わる事で、認知症の周辺症状が軽減し、その人がその人らしく暮らす事が出来るよう様々な支援が試みられて参りました。

本大会はこれまで「グループホーム大会」として4回開催されて参りましたが、今回より、平成18年度、新たに創設されました小規模多機能型居宅介護の事業所も加わり「小規模多機能・グループホーム大会」と名前が変更されます事をご報告いたします。

グループホームが入居利用であるのに対し、居宅介護の切り札として小規模多機能型居宅介護事業所が登場致しました。その利用者の生活の拠点は住み慣れた地域居宅です。通所サービス・訪問介護サービス・ショートステイの各サービスが、利用者の良く知っている馴染みの職員により柔軟性をもって行われるのが

大きな特徴です。利用者の状態や家族の介護力・住環境など様々な事情により、サービスの組み合わせ、つまり、利用の仕方でも多様となります。これらのニーズに柔軟に対応する事で、要介護者・要支援者の在宅生活の期間を延長できるのではないかと期待されています。

本大会は、各ホームが取り組んだ事例を発表する事によって、他のホームでの介護の実際を知り、自分達のホームの参考としたり、困難事例へのアドバイスを行ったり、結果としてケアの質の向上を図る、また、迷ったり悩んだりしているのは自分だけではない事を知り、職員同士が苦労や喜びを共有する仲間となる事を目的として始められたものです。今回は、発表だけでなく、2事例を

シンポジウムにて取り上げて、皆様とディスカッションする場を設けました。

このような大きな期待を背負うそれぞれの事業所は小規模です。小規模故に、その運営は厳しく、更に、昨今、介護職離れの傾向も見られ、職員の確保に苦勞している事業所も少なくありません。

せっかく高齢者介護を志した者たちが、ことなきよう、午後の第二部で忙しい職務の中、準備をし、事例を提供した職員や、それを参考にしようとするこの会場まで、足を運んで来た職員が報われるような施策も含めたお話しが、この後、群馬県健康福祉局 介護高齢課長の江口哲郎様と、市町村を代表して高崎市健康福祉部 長寿社会課長の嶋田訓和様から、伺えれば幸に存じます。

さらに、その後、認知症理解のための寸劇、それに続いて、立川談志師匠のお弟子さんであります立川談之助氏による落語をお聞きになって、おおいに笑い、日頃の苦勞を吹き飛ばして頂けたらと思います。

本日、ご来場の皆様には、ケアのヒントになるものを持ち帰っていただく事を願いまして、私の挨拶とさせていただきます。



第五回 群馬県小規模多機能・グループホーム大会

プログラム

受付	10:00～		
開会式	10:30～10:45	(多目的ホール)	
会長挨拶	NPO 法人	じゃんけんぼん	理事長 井上謙一
来賓挨拶	群馬県健康福祉局	介護高齢課長	江口哲郎氏
	高崎市健康福祉部	長寿社会課長	嶋田訓和氏
第一部	10:45～	寸劇 (認知症の人を理解する)	群馬県認知症一座
	11:30～	特別講演「笑い と 高齢化社会」	立川談之助
	12:30～	休憩	
第二部	13:30～	事例発表	3会場に分かれ24事例の発表
	15:00～	全体事例シンポジウム	2事例の発表 (参加者、パネラーにより事例を検討し深める)
	16:30	終了	

事例発表 参加者一覧

第1会場：多目的ホール

テーマ「介護の工夫」

コーディネーター：井上謙一

コメンテーター：群馬社会福祉評価機構 近藤多喜子氏

- 1、夜は心配事が増えるんだよ
じゃんけんぼん伊香保 埴田 清子
- 2、食事の自力摂取を目指して
～Aさんらしい食事場面の提供～
あおなし 中島 麻奈
- 3、「後3年で100才?へっ。もういいや。(笑顔)」
じゃんけんぼん群馬町 小林実千代
- 4、その人がその人らしく・・・
ビオラ 今井みゆき
- 5、自力排泄の大切さ・・・Part 2・・・
ケアホーム家族の家境野 弦巻 由佳
- 6、理念に基づいた介護を行って
サンシャイン 佐藤 栄子
- 7、無断外出への対策 入居者の人権への
配慮と安全確保との狭間で おおいど 細谷喜久美
- 8、言葉の裏にある思いを知り、ケアに生かす
音和の家 飯沼 理恵

第2会場 社会適応訓練室

テーマ「リハビリ・リスクマネジメント」

コーディネーター：恩田初男

コメンテーター：サービス評価センターはあとらんど
行方富子氏

- 1、家族の家泊旅行の歴史
ケアホーム家族の家藤生沢 渡邊 岳
- 2、「ヒヤリハットの事例に学ぶ」
さつき 木村 雅人
- 3、環境整備によるリスクマネジメントと
情報の共有化
旭ヶ丘 青木 義真
- 4、げんきプリント～脳を鍛える学習療法～
めだか 小林 康哲
- 5、Let's チャレンジ ミュウジックベルで音楽を奏でる
うさぎ 須賀 淳子
- 6、「心 穏やかに」
のぞみ 高橋 彩未
- 7、歌唱とぬり絵の効果で脳の活性化を図る
～歌とぬり絵のWパワーで元気も2倍～
りんご 半田久美子
- 8、舞踏を通して得たもの
～生活の質の向上を目指して～ あおぞら 山守千登世

第3会場 第1, 2会議室

テーマ「地域密着・ケアプラン・運営」

コーディネーター：渡邊高行

コメンテーター：群馬社会福祉評価機構 新井節夫氏

- 1、「Kさんを知ることでケアが変わる」
ゆうゆう・うちだ 武井 忍
- 2、その人らしく生活するために私の地図を活用した図形化支援
～情報を人物像に結びつける取り組み～
かがやき入野ホーム 吉田 恵理香

全体事例シンポジウム 多目的ホール

パネリスト：連絡協議会 会長 井上謙一
連絡協議会 副会長 渡邊高行
連絡協議会 副会長 恩田初男

3、意見交換シートの活用

～アセスメントの質の向上を目指して～

あかぎ 山口 理恵

4、小規模多機能型居宅介護での初めてのケアマネジメント

ケアマネジメントセンターようざん 小林 桂子

5、地域の中で生きていく 堀マラソンに参加して・・・

ケアホーム家族の家新里 草処 裕子

6、地域と家族の思い

さんご 清水 栄子

7、運営推進会議を開催して

とんぼ 森口 尚子

8、グループホームはどこまでケアすべきか

Aさんの退所をめぐって どんぐり 深町 恭子

1、「地域の人達と健康体操教室に参加して」

グループホーム 榛名荘 菅原 優

藤井さやか

2、「生活歴を生かした、その人に合ったケア」

グループホーム クララ 高橋 貴子

各ブロックより 中間報告

西部ブロック

ブロック長 松原徹

8月2日

第1回西部ブロック総

会にて、高崎市と安中市
による現在の状況と今後
の計画予定の報告。また、
研修部会から今年度の活
動予定とレベルアップ研
修のマニュアル説明を行
う。

研修部会より、6月より、
レベルアップ研修を開始
しており、その中で、ま
ず、レベルアップ研修に
参加可能かどうかのアン
ケートを実施しており、
今年度は、研修生のニー
ズによって組み合わせを
決める事とし、現在活動
中である。
広報ネットワーク部会
より、会報に掲載して
欲しい情報等のアンケー

トを実施中である。
会報やホームページの
中で掲載して欲しい情報
等、アンケート実施によ
り、ご要望を伺っていま
す。引き続き皆さんの意
見をお聞かせ願いたいと
思います。
連絡先：原市の小林へ
東毛ブロック
ブロック長 川島香瑞美
8月1日

研修は1回目の交換研修を
年内に終える予定である。
2回目以降は年明けから開
始する。施設見学は、現在
実施中。
11月27・28日
蕪川行政センターにて救
急救命講習会を行う。研修
参加者49名。
中北毛ブロック
ブロック長 池田清
7月

は、9月より実施し、18件
中9件終了。
お知らせ
平成20年1月25日(金)
渋川中央公民館にて、午後
2時～4時まで、井上謙一
会長を講師し「認知症につ
いて」講演予定。
南部ブロック
ブロック長 清水浩幸
当ブロックは、現在の時
点では活動を行っていない
のが現状ですが今後の活動
予定として、年明けを目処
に、ブロック会議を実施す
る予定です。会議において
は、「介護保険制度や世情の
変化により、入居者・職員
双方の確保が困難な状況に
なった」など、各ホームが
抱える問題点の変化などに
ついてお聞かせいただいた
上で、ブロックとしての活
動内容を検討したいと考え
ております。また、連絡協
議会に期待することについ
てもご意見をお聞かせ願え
れば幸いです。